次に、第3の柱

『だれもが住みよい暮らしづくり』についてであります。

地域福祉につきましては、今年度策定する「第4次大田市地域福祉計画・地域福祉活動計画」に基づき、「だれもが住みよい暮らしづくり」を目指して、地域の人や資源が、世代や分野を超えて繋がり、すべての人が役割と生きがいをもって暮らせる地域を共に創る「地域共生社会」の実現に向け、保健・医療・福祉などの関係機関が連携し、複雑・複合化する生活課題の解決に向けた取り組みを進めてまいります。

妊娠・出産・子育て支援につきましては、こどもを産み育てたいと願う方々の気持ちに寄り添う支援として、不妊症等のためにこどもを授かることが困難な夫婦に対し、年間30万円の治療費助成により経済的負担を軽減し、治療機会の拡大を図っています。

本市の出生数のうち、約1割が治療を経て出産に至っていることから、今後も継続して助成してまいります。

新年度から、教育委員会で所管している**幼稚園に係る事務の一部を健康福祉部に移管**します。令和10年度に予定している「幼保連携型認定こども園」の開園に向け、こどもたちの「育ち」を中心に据え、幼児教育と保育の相互の連携を深めながら、開園の準備を進めてまいります。

公立保育所のあり方につきましては、施設の老朽化が進み、出生数が減少傾向にある中、厳しい財政状況を勘案しながら、保護者・地域の皆さまと協議を重ね、こどもたちにとって、よりよい教育・保育環境を確保するとともに、保育サービスの充実を図ってまいります。

健康づくりにつきましては、今年度策定する「第2期おおだ健やかプラン」に基

づき、市民の皆さまが普段の生活の中で、無理なく自然に健康になれる環境づくりに向けて、市内の各種団体と連携して取り組んでまいります。

地域医療の提供体制につきましては、患者数の減少が見込まれる中山間地域の医療提供体制の維持に向けた有効な手段の一つとして、池田診療所におけるオンライン診療の導入を検討してまいりました。

池田地域で説明会や体験会を開催し、オンライン診療に対する地域の皆さまのご理解を得たため、新年度から、週4回の診療日のうち1回をオンライン診療とすることにしました。

仁摩診療所につきましては、泉司郎（いずみ しろう）医師が、本年3月末をもって退任され、4月から井上幹也（いのうえ みきや）医師をお迎えします。

医療法人銀泉会（ぎんせんかい）の理事長として、仁摩・温泉津地域を中心とした地域医療を支えていただいた泉医師のご功績に深く感謝いたしますとともに、新たにご就任いただく井上医師には、同地域の安定した医療提供の継続にお力添えをいただきたいと思います。

周辺自治体や市立病院、関係機関と連携を図り、地域医療の確保・維持に努めてまいります。

高齢者福祉につきましては、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で自分らしく生活し続けることができるよう、介護サービスの提供や介護予防、高齢者虐待の防止、認知症の方や家族への支援など、各種事業に取り組んでまいります。

介護報酬改定により、基本報酬が減額となった訪問介護サービスにつきましては、地理的な要因によるサービスの地域間格差を解消するため、サービス提供を行う事業所を支援する「大田市訪問介護サービス確保対策補助金」を拡充しました。引き続き、高齢者の在宅生活を支える訪問介護サービスの維持・向上に取り組んでまいります。

障がい者福祉につきましては、「障がいのあるなしに関わらず、だれもが安心して、自分らしく暮らせるまちづくり」を目指し、障がいのある人が住み慣れた地域で、安心して暮らし続けることができるよう、取り組みを進めてまいります。

人権施策の推進につきましては、ユネスコの「平和と人権尊重」の精神に基づき、「一人ひとりの人権が尊重される、心豊かな共生社会」の実現に向け、関係機関や団体等と連携を図り、家庭・地域・職場・教育現場などあらゆる場と機会において人権問題について考え、解決を図る環境づくりを積極的に推進してまいります。

また、新年度に建替え工事に着手する、仮称「大田市人権センター」につきましては、福祉の向上や人権啓発の拠点として誰もが利用しやすい施設となるよう整備してまいります。

男女共同参画の推進につきましては、「第3次男女共同参画計画」に基づき、男女共同参画社会の構築を推進するため、市民の皆さま、関係機関と協力連携を図り、取り組みを進めてまいります。

多文化共生社会の実現につきましては、「大田市多文化共生推進計画」に基づき、年々増加する外国人住民が、地域で安心して快適に暮らすことのできる環境づくりに努めてまいります。引き続き、国際交流員を配置し、各地域において多文化理解を進めるため、交流事業や日本語ボランティアの育成などに取り組んでまいります。